

1

主要港2024年コンテナ取扱量

2024年のコンテナ取扱量上位10港のうち、6港を中国、9港をアジアの港湾が占める。世界の生産拠点である中国の輸出入港を筆頭に、シンガポール、釜山、ドバイなどのトランシップ拠点がこれに続き、欧米の輸入港は最上位のロッテルダムでも11位にとどまる。

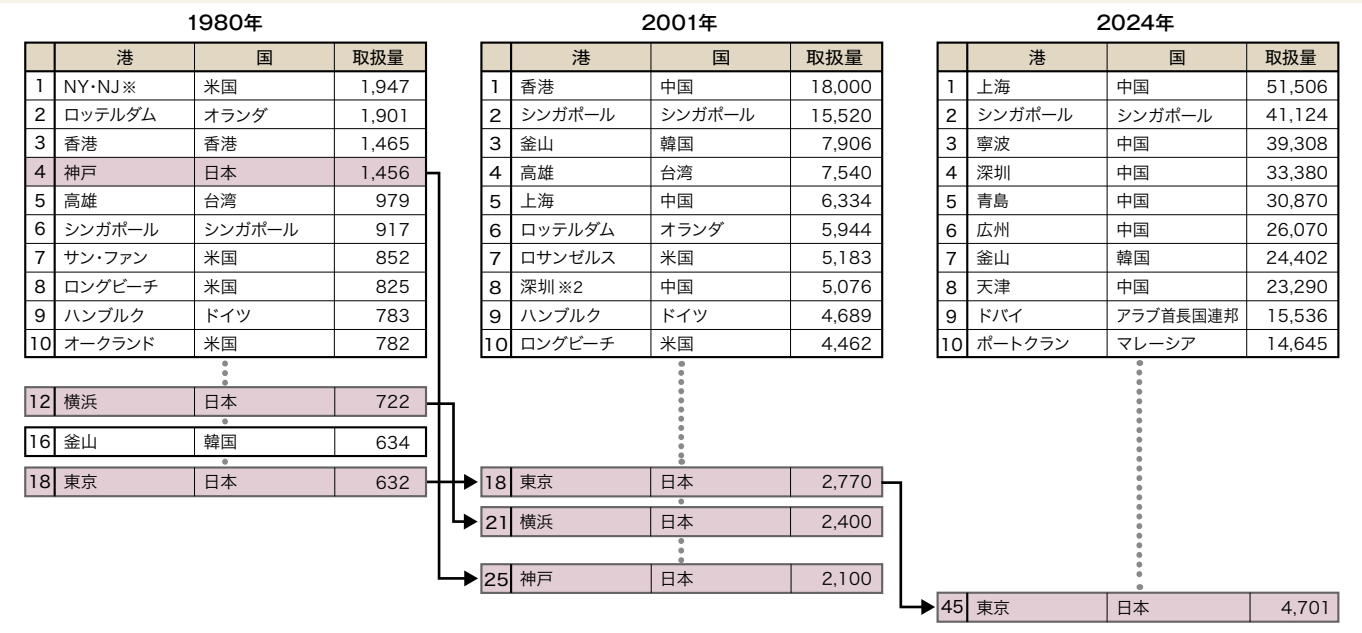
順位	23年順位	港	国	取扱量	前年比
1	1	上海	中国	51,506	4.8
2	2	シンガポール	シンガポール	41,124	5.4
3	3	寧波	中国	39,308	11.4
4	4	深圳	中国	33,380	11.7
5	5	青島	中国	30,870	7.3
6	6	広州	中国	26,070	2.6
7	7	釜山	韓国	24,402	5.9
8	8	天津	中国	23,290	5.0
9	9	ドバイ	アラブ首長国連邦	15,536	7.4
10	11	ポートクラン	マレーシア	14,645	4.1
11	12	ロッテルダム	オランダ	13,820	2.8
12	10	香港	中国	13,668	▲5.1
13	14	アントワープ	ベルギー	13,500	8.0
14	13	廈門	中国	12,255	▲2.4
15	15	PTP（タンジュンペラパス）	マレーシア	12,253	16.9
16	18	ロサンゼルス	米国	10,297	19.3
17	19	タンジェメド	モロッコ	10,241	18.9
18	20	太倉	中国	9,670	20.3
19	21	ロングビーチ	米国	9,650	20.3
20	16	レムチャバン	タイ	9,555	7.7
21	17	高雄	台湾	9,228	4.5
22	25	ホーチミン	ベトナム	9,158	23.8
23	30	欽州	中国	9,020	45.2
24	22	NY&NJ ※	米国	8,698	11.4
25	24	ムンドラ	インド	8,217	11.0
26	26	タンジュンプリオク	インドネシア	7,827	7.4
27	23	ハンブルク	ドイツ	7,800	1.3
28	27	コロombo	スリランカ	7,780	12.1
29	33	ハイフォン	ベトナム	7,151	12.8
30	34	カイメップ	ベトナム	7,083	29.2

出典：Lloyd's List One Hundred Ports 2025
(注) 取扱量単位は千TEU。
※ NY・NJは、ニューヨーク・ニュージャージーの略。

2

主要港コンテナ取扱量の推移（1980、2001、2024年経年比較）

1980年には神戸4位、横浜12位、東京18位と、わが国の港湾は世界の上位に位置していた。しかし生産拠点が日本から中国・東南アジアへ移るなかで順位は下がり続け、2024年には最上位の東京でも45位となった。アジア全体のシェアが拡大するなか、わが国はその例外として相対的地位を大きく低下させている。



出典：Lloyd's List One Hundred Ports 2025 （注）取扱量単位は千TEU。 ※ NY・NJは、ニューヨーク・ニュージャージーの略。

3 コンテナの荷動き (推計)

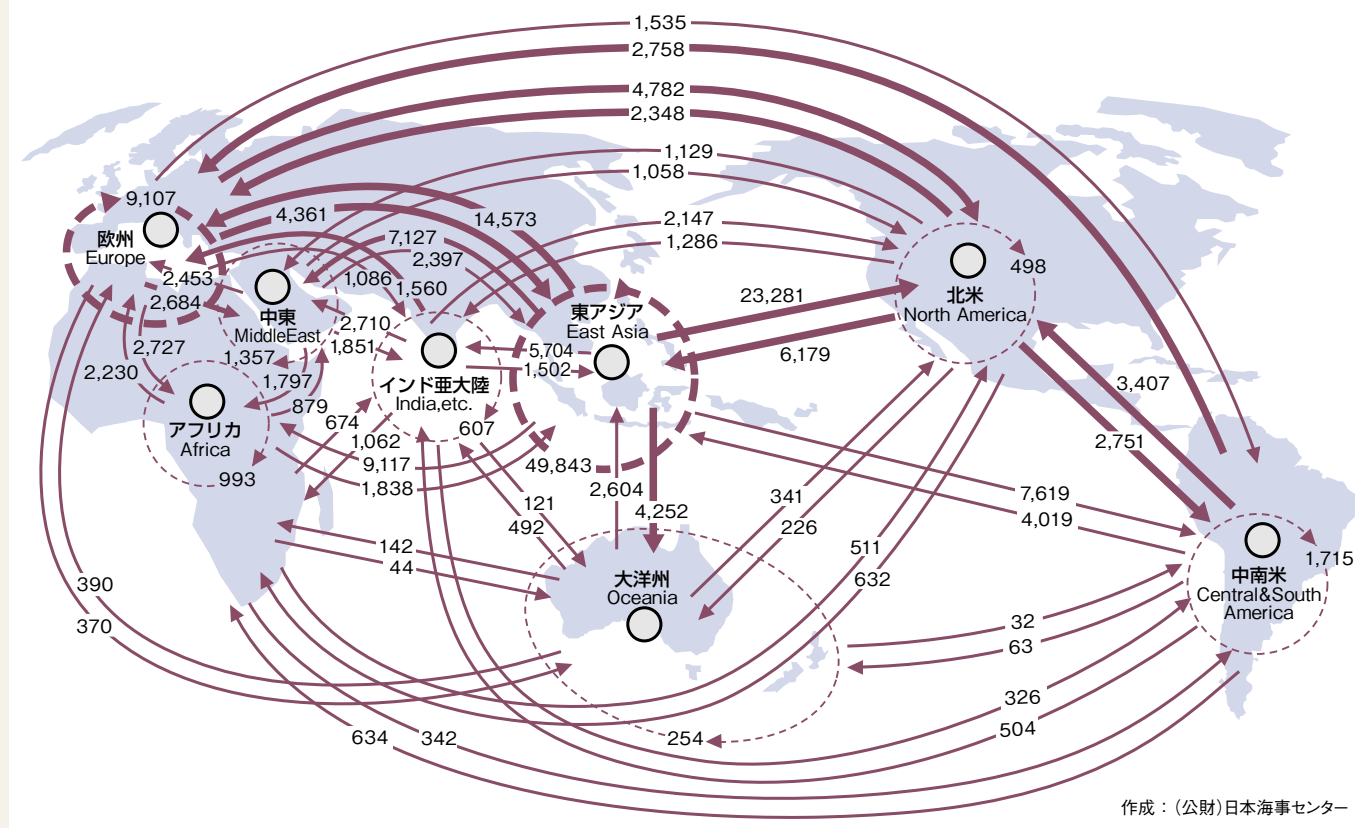
2025年の世界のコンテナ荷動き量は、210,558,061TEUで前年比4.2%の増加だった。東アジア域内だけで見ると、前年比3.6%の増加である。現在の世界のコンテナ荷動きは、アジア／北米、アジア／欧州の基幹航路よりも東アジア域内の方が圧倒的に多くなっている。

World Container Estimated Movement in 2025

Total: 210,558,061TEU

前年比4.2%増

単位: 千TEU

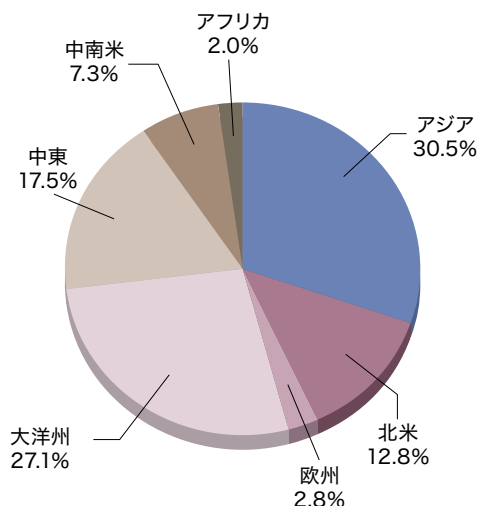


4 わが国の海上貿易量の内訳

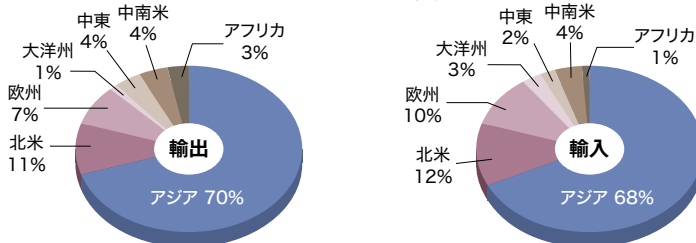
わが国の海上貿易をみると、コンテナ貨物では、輸出入ともにアジア地域内との貿易が6割以上を占めている。

不定期船貨物については、輸出ではアジア域内が約7割、輸入では大洋州や中東等の資源保有国からの輸入がシェアの半分以上を占める。

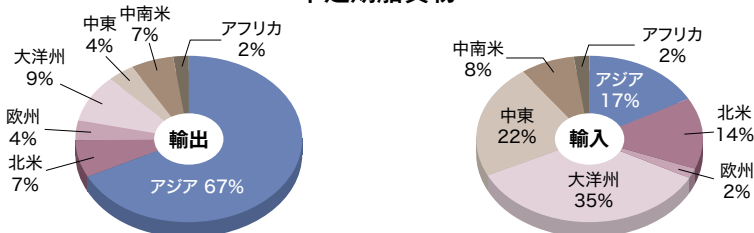
日本の地域別海上貿易量の内訳



コンテナ貨物



不定期船貨物



出典: 財務省貿易統計

(注) ①2025年の数値。②コンテナ貨物と不定期船貨物のデータについては財務省「貿易統計」を基に海事局作成。③端数処理のため、末尾の数字が合わない場合がある。

5 フルコンテナ船運航船腹量上位20社

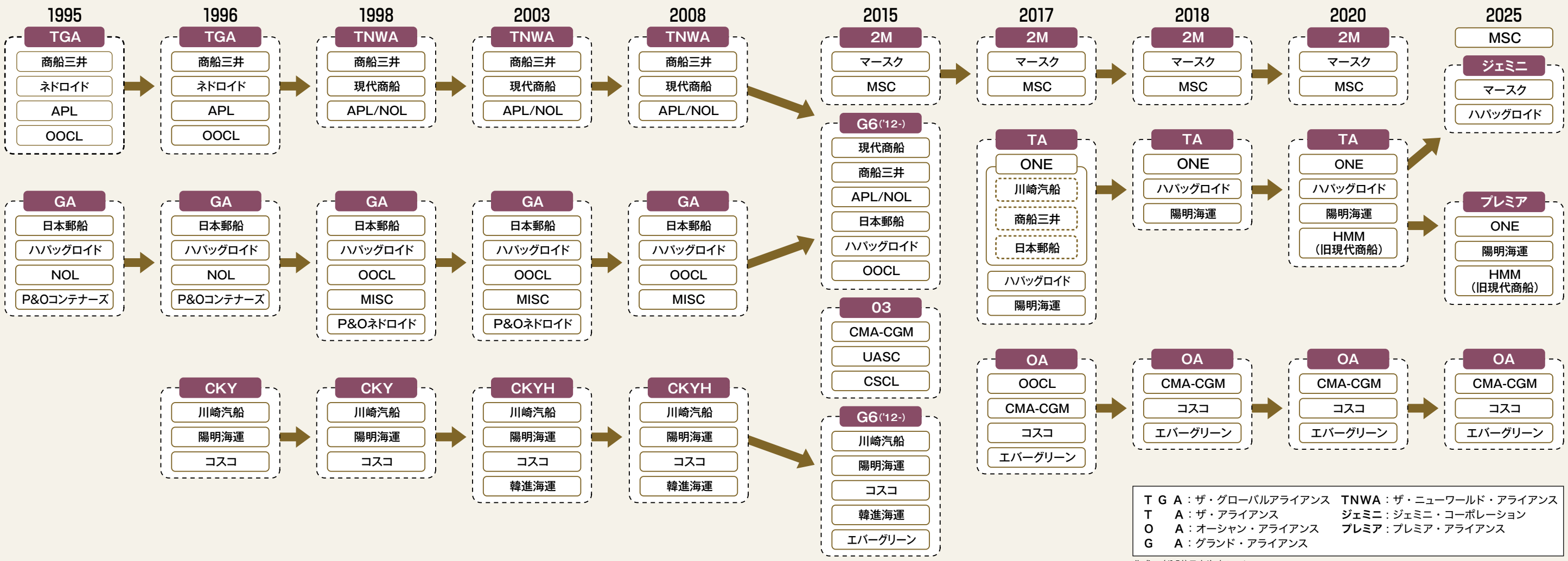
近年、コンテナ業界では上位船社への集中度が高まっている。1995年では上位3船社のシェアは17.3%であったが、2026年には47.9%まで上昇している。

1995年			2010年			2026年4月現在		
順位	運航会社	TEU	順位	運航会社	TEU	順位	運航会社	TEU
1	Maersk Line (デンマーク)	180,831	1	Maersk Line (デンマーク)	2,029,206	1	MSC (スイス)	7,261,637
2	Sea-Land (米国)	180,000	2	MSC (スイス)	1,748,944	2	Maersk Line (デンマーク)	4,649,966
3	China Ocean Shipping (Group) Company : COSCO (中国)	153,253	3	CMA-CGM (フランス)	1,171,998	3	CMA-CGM (フランス)	4,253,437
4	Evergreen (台湾)	146,557	4	Evergreen (台湾)	606,235	4	COSCO (中国)	3,594,950
5	日本郵船	115,626	5	Hapag-Lloyd Container Line (ドイツ)	584,266	5	Hapag-Lloyd (ドイツ)	2,384,201
6	韓進海運 (韓国)	97,176	6	APL (シンガポール)	570,038	6	Ocean Network Express (シンガポール)	2,132,276
7	大阪商船三井船舶	96,775	7	Compania Sud Americana de Vapores : CSAV (チリ)	567,122	7	Evergreen (台湾)	1,973,231
8	American President Line : APL (米国)	96,326	8	COSCO (中国)	530,626	8	HMM (韓国)	1,025,953
9	P&O Containers (英国)	92,083	9	韓進海運 (韓国)	470,946	9	陽明海運 (台湾)	723,368
10	Nedlloyd Line (オランダ)	90,714	10	CSCL (中国)	430,559	10	Zim Integrated Shipping Services (イスラエル)	698,205
11	川崎汽船	70,193	11	商船三井	396,610	11	Wan Hai Lines (台湾)	591,132
12	Orient Overseas Container Line : OOCL (香港)	69,311	12	日本郵船	372,440	12	Pacific International Lines (シンガポール)	443,154
13	Hapag-Lloyd Container Line (ドイツ)	69,180	13	OOCL (中国)	357,563	13	X-Press Feeders Group (シンガポール)	198,890
14	DSR Senator (ドイツ)	68,915	14	Hamburg-Sud (ドイツ)	355,133	14	SITC (中国)	187,472
15	陽明海運 (台湾)	68,513	15	川崎汽船	328,908	15	UniFeeder (デンマーク)	168,094
16	Neptune Orient Lines : NOL (シンガポール)	67,935	16	陽明海運 (台湾)	318,791	16	KMTC (韓国)	154,447
17	現代商船 (韓国)	59,526	17	Zim Integrated Shipping Services (イスラエル)	305,576	17	Islamic Republic of Iran Shipping Lines (イラン)	143,178
18	Zim Integrated Shipping (イスラエル)	59,247	18	現代商船 (韓国)	292,519	18	Global Feeder Shipping (UAE)	136,370
19	Mediterranean Shipping Company : MSC (スイス)	53,566	19	Pacific international Lines (シンガポール)	252,500	19	Sinokor Merchant Marine (中国)	120,081
20	Compagnie Maritime d'Affretement : CMA (フランス)	48,878	20	United Arab Shipping Company : UASC (中東湾岸6カ国)	216,620	20	Regional Container Lines (タイ)	104,028
全世界		2,969,315	全世界		14,092,321	全世界		33,980,202

出典：Alphaliner、日本郵船調査グループ「世界のコンテナ輸送と就航状況」 作成：(公財)日本海事センター

6 コンテナ船社のアライアンス

世界規模での最適配船、コスト合理化を図るため、コンテナ運航船社間協定による複数の航路やサービスでの協調体制である「アライアンス」が1990年代に誕生。2017年7月に邦船3社が定期コンテナ船事業部門を統合しOcean Network Express (ONE) を設立、2018年4月にサービスを開始した。2025年2月から新しいアライアンス体制がスタートした。



作成：(公財)日本海事センター

7 大手コンテナ船社の主なM&A等の動き (企業グループ別フローチャート) 作成：(公財)日本海事センター

激しい国際競争により、世界のコンテナ船社は1990年代より世界規模でM&Aを繰り返し、集約・再編が進んでいる。

※2026年4月現在のデータを元に作成

- ① は、2026年現在のコンテナ船腹量上位20社にランクされ、この20年の間にM&Aが行われた企業である。
- ② は、2010年以前に上位20社にランクされる状況にあったことを示す。(['00]はこの時点で上位20社にランクされたことを示す。)
- ③ 上位20社にランクされない状況にある場合は、**――**で示してある。
- ④ 右欄のランキングの下段()書きは、上位20社中のシェア(%)である。
- ⑤ 内の数字は前年のランキングである。
- ⑥ 枠内の数字は会社設立年である。

